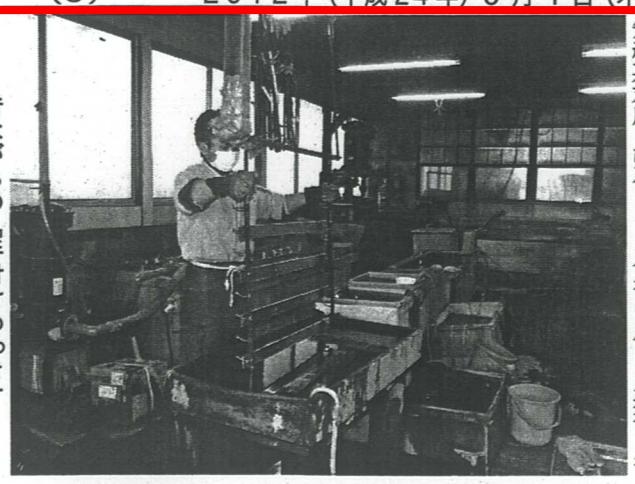
「即日、その場で」めっき処理

八幡鍍金・短納期対応を強化、個人需要開拓も



昔ながらの「手付けめっき」が柔軟な対応を可能にする

後藤専務

電気めっき加工を手掛ける八幡鍍金（高崎市八幡町370－1、半澤健社長☎027～343～3736）は短納期対応を強化している。「即日、その場で」を合言葉に、急ぎの業者はもちろん、近年は「レストア専科」を立ち上げ、個人の需要も取り込むなど、新たな顧客を開拓中。後藤洋介専務は「気軽に立ち寄ってもらえる喫茶店感覚のめっき屋さんにしていければ」と今後の展開に期待を寄せる。

同社は断裁機メーカーの高崎精器（高崎市八幡町）のグループ会社。銅、ニッケル、クロムなどのめっき加工を手掛けており、高崎精機の製品のほか、各種部品の表面処理で実績を上げている。

こうした事業展開の中、同社の売りとなっているのが昔ながらの「手付けめっき」。熟練の技術が不可欠だが、装置化された自動めっきに比べ、柔軟な対応が可能となるため、「即日、その場」の短納期化が実現できるというわけだ。

製品のロットや大きさによって、加工時間は左右されるものの、脱脂からめっき処理まで最短で30分程度。納期が迫り、ピンチな場合でも「八幡さんに持っていけば何とかしてくれる」と徐々に信用を勝ち取り、現在、取り引き先は100社程度に達している。

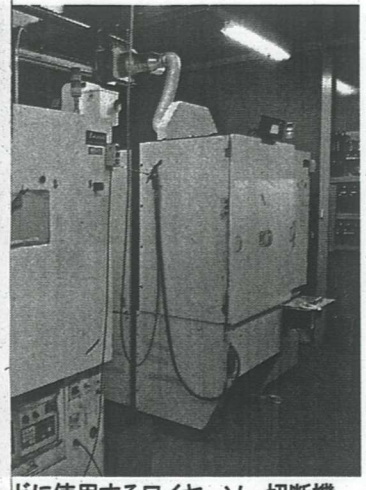
一方、近年新たな取り組みとして力を入れているのが一般顧客の受け入れだ。7年程前から高崎精器のホームページ上に「レストア専科」を立ち上げ、PRしたところ、バイクや自動車愛好家の目に留まり、受注が舞い込むようになり、フェラーリのレストアを手掛けた実績も。今後、さらなるPRに向け、専用サイトの開設も視野に入れており、新たな柱にしていく方針だ。

後藤洋介専務の話

めっき屋にもさまざまな付加価値があるが、当社の場合はスピード対応を売りにしている。まったくの新規のお客でもできうる限りの対応をするので、気軽に声を掛けてもらえれば。

ぐんま経済新聞

発行所　群馬経済新聞社
本　社　（郵便番号371-0855）
前橋市問屋町1-1-1NF2ビル
電話代表 (027)252-7700
FAX (027)251-8218
郵便振替口座00390-5879
©群馬経済新聞社　2012



どに使用するワイヤーソー切断機

同社は82年に設立。長年レンズ部品の研磨加工に特化し事業展開してきたが、ここ10年は樹脂やセラミック、複合材料といった難加工材の精密研磨に活路を見出し、電子部品や半導体、光学機器などの開発試作品を中心に生産している。

こうした事業展開の中、新たに、力を入れているのが「フォトマスク」のリサイクル事業だ。フォトマスクとは、半導体製造工程における写真フォトマスクとは、半導体

マスクの素材は透明度の高い合成石英などで、コストが高いことから、再利用する機運が高まっており、ソーラーパネルの研磨リサイクルなどでも実績を上げてきた同社にとってノウハウが相当する。

特許・商標

「ブラックボックス化も一つの手」

特許庁など主催の知財セミナー

中小企業のパネルディスカッションも

関東経済産業局や特許庁、県などが主催する知的財産セミナーが2月24日、高崎市産業センターで開催された。県内企業の知財担当者らが参加し、ディスカッションが行われた。

「活用事例」として出願と権利化を演じた氏は、氏により作られているのが「けい」と

群馬産技センター

機械振興協会

利用者

群馬産業技術センター前橋市亀里町、眞下寛所長）は2月22日、一財団法人機械振興協会港区）と包括的連携協定を締保有する同研究に、セ

で「樹脂の複合せなど磨専業てきた注目がの、えのが切